

令和3年度 博物館総合評価

博物館評価 関係資料

(令和3年度計画に関する事前評価)

令和3年4月
北海道博物館

令和3年度博物館総合評価 博物館評価 事前評価結果

番号	項目名	第一次自己評価	第二次自己評価
1	資料の収集・保存	A	A
2	展示	A	A
3	調査研究	A	A
4	北海道開拓の村の整備	A	A
5	教育普及事業	A	A
6	ミュージアム・エデュケーター機能の強化	A	A
7	施設及び周辺環境の整備	A	A
8	広報	A	A
9	評価制度の活用と利用者ニーズの把握	A	A
10	道民参加の推進	A	A
11	博物館ネットワーク	A	A
12	情報発信	A	A
13	人材育成機能の強化と社会貢献	A	A
14	研究成果の発信	A	A
15	アイヌ民族文化研究センターの事業	A	A
16	4つのビジョン（重点目標）	A	A

令和3年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号	1	所管 G	博物館基盤 G			
項目名	資料の収集・保存					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	山際秀紀	鈴木琢也		3,468	3,198	
予算計上	【特定重点】 □榊太記憶継承事業 [資料の保管 2,753 千円、財源：基金繰入金、時限付き (15 年間)] 【一般施策】 □北海道博物館事業費 (資料保存管理) [445 千円]					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点④】「榊太記憶継承事業」の一環として、一般社団法人全国榊太連盟より受け入れた榊太関係資料 (以下「榊連資料」) 約 6,000 点の収蔵・整理・保管				
	一般項目	(1) 資料の収集 【ア】北海道博物館資料収集基本方針に基づく資料登録活動を継続的に実施 [年間資料情報件数見込 60 件程度、年間資料登録件数見込約 25 件程度] 【イ】収集資料の調査、整理・分類・登録の推進 (各研究 G への働きかけ) (2) 収蔵機能の強化 【ア】収蔵資料データベースのシステム更新に伴う効率的な運用 【イ】災害発生時の被災資料の受入れや保存処理などに対応できる機能と体制の整備に向けた検討 【ウ】収蔵スペースの確保に向けた検討・取組 (3) 資料保存環境の維持 【 】適切な資料保存環境の維持に向けた取組 【 】文化財保護法にもとづく公開承認施設 (国宝・重要文化財等の公開に適した施設・設備・体制を備えた施設) の変更申請及び会議・研修などへの参加 (4) 収蔵資料の利用への対応 【 】資料の貸出への対応 [年間見込 25 件 500 点程度] 【 】資料の特別観覧への対応 [年間見込 70 件 1,000 点程度] 【 】資料の模写品等使用への対応 (北海道博物館) [年間見込 120 件 300 点程度] 【 】資料の模写品等使用への対応 (開拓の村) [年間見込 40 件 150 点程度]				
前年度との主な変更点	・重点項目「榊太記憶継承事業」：昨年度の「約 6,000 点を収集」を削除し、一般項目の「収集した榊連資料の収蔵・保管」を重点項目へ移動し、「約 6,000 点の収蔵・整理・保管」へ変更。 ・収蔵資料の整理作業促進のため、「(1)資料の収集」に「収集資料の整理、調査・分類・登録の推進」を追加。					
直近の協議会評価意見に対する取り組み	・収蔵スペースの問題について、戦略性のある将来設計を行う必要がある。 ・平成 30 年の胆振東部地震の対応を踏まえ、災害発生を前提とした機能・体制整備を進める必要がある。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	鈴木琢也	個別評価項目		個別評価
	A B C	【説明】 新型コロナウイルス感染症の感染拡大という状況のなかで、特別観覧受入や資料収集等の縮小の可能性も想定されるが、年度計画などについては適切と考えられる。		中期目標・計画との整合性	a b c	
				年度計画の適切性	a b c	
				協議会評価意見の反映	a b c	
			実現の可能性	a b c		
第二次自己評価	総括評価	学芸部長	堀 繁久	評価完了日	令和3年4月15日	
	A B C	【意見】 今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況の変化の中、事業の中止や縮小などの可能性もあるが、年度計画等については概ね適切と判断される。				

令和3年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号	2	所管 G	博物館基盤 G			
項目名	展示					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	会田理人	鈴木琢也		4,814 (26,425)	17,885	
予算計上	<input type="checkbox"/> 【重点】樺太記憶継承事業〔資料活用 3,236 千円、財源：基金繰入金、時限付き（15 年間）〕 <input type="checkbox"/> 【重点・新規】野幌森林公園エリア活性化事業〔展示改修委託等 5,051 千円〕 <input type="checkbox"/> 【重点・新規】北海道博物館特別展〔特別展 9,415 千円、財源：臨時交付金〕 <input type="checkbox"/> 北海道博物館事業費（総合展示）〔0 千円〕 <input type="checkbox"/> 北海道博物館事業費（テーマ展）〔0 千円〕 <input type="checkbox"/> 北海道博物館事業費（展示会等に必要な機器借上・大型プリンタ）〔183 千円〕					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点④】収集した樺連資料の展示に向けた検討 【中期目標・計画/重点②】(2)イ) 道民参加型展示の企画・推進 【(1)イ)】利用者ニーズに基づいた総合展示の検証、段階的部分改修の検討・計画作成				
	一般項目	(1) 総合展示室の運営 【ア】総合展示室における展示資料の入替え推進〔年間延べ 40 点程度〕 【ア】クローズアップ展示コーナーの更新推進〔年間 7 件 27 回程度〕 【ア】アイヌ文化 Q & A (第 2 テーマ) の更新推進〔年間 3 回程度〕 【ア】総合展示 2 階出口付近の参加型展示の更新〔年間 1 回程度〕 【ア】第 4 テーマ「今とこれからをつくる」の入替え推進〔年間 3 件程度〕 【ア】学芸員紹介コーナーの入替え〔年間 1 回程度〕 【イ】総合展示の小規模改訂計画の作成と本年度改訂の実施 【イ】次年度総合展示更新実施計画（各テーマの個別資料入替、クローズアップ展示）の作成 【イ】総合展示資料目録の作成・更新 【ウ】総合展示のメンテナンスと総合展示室の管理〔随時〕 【ウ】大掃除の実施計画作成と推進〔年間 1 回〕 (2) 企画展示の開催 【ア】他機関との連携・協働、巡回展の誘致を視野に入れた次年度以降企画展実施計画の作成 【ウ】特別展の開催推進・運営〔年間 1 件程度〕 【ウ】企画テーマ展の開催推進・運営〔年間 3 件程度〕 【ウ】アイヌ民族文化研究センターが主催する巡回展の開催推進・運営〔年間 1 件程度〕 【ウ】企画展示に係る図録・リーフレットの編集・作成・刊行〔年間 4 件程度〕 【】特別展示のメンテナンスと特別展示室の管理〔随時〕				
前年度との主な変更点	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合展示の小規模改訂計画の作成と本年度改訂の実施」を新たに追加。 ・数年前から懸案事項となっていた「道民参加型展示の企画・推進」及び「総合展示資料目録の作成・更新」を新たに追加。 ・そのほか、これまで恒常的に実施してきた「次年度総合展示更新実施計画（各テーマの個別資料入替、クローズアップ展示）の作成」「総合展示のメンテナンスと総合展示室の管理」「大掃除の実施計画作成と推進」「他機関との連携・協働、巡回展の誘致を視野に入れた次年度以降企画展実施計画の作成」「特別展示のメンテナンスと特別展示室の管理」を頭出し。 ・業務移管により新たな業務となる「企画展示に係る図録・リーフレットの編集・作成・刊行」を追加。 					
直近の協議会評価意見 に対する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・とくに該当意見なし。 					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	鈴木琢也	個別評価項目	個別評価
	Ⓐ B C	【説明】 新型コロナウイルス感染症の感染拡大という状況のなかで、総合展示入替え及び企画展示の計画変更等の可能性も想定されるが、年度計画などについては適切と考えられる。		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c
				年度計画の適切性	Ⓐ b c
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c
実現の可能性				a Ⓑ c	
第二次自己評価	総括評価	学芸部長	堀 繁久	評価完了日	令和3年4月15日
	Ⓐ B C	【意見】 今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況の変化の中、事業の中止や縮小などの可能性もあるが、年度計画等については概ね適切と判断される。			

令和3年度 博物館評価調査書

中期目標・計画番号	3	所管 G	研究戦略 G			
項目名	調査研究					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	大坂 拓	水島未記		15,431	14,697	
予算計上	<input type="checkbox"/> 【重点】榊太記憶継承事業 [調査研究 300 千円、財源：基金繰入金、時限付き (15 年間)] <input type="checkbox"/> 北海道博物館試験研究費 (外部資金活用) [6,653 千円] <input type="checkbox"/> 北海道博物館試験研究費 (一般研究) [1,710 千円] <input type="checkbox"/> 北海道博物館試験研究費 (地域情報集積) [2,768 千円] <input type="checkbox"/> 北海道博物館試験研究費 (総合研究) [1,484 千円] <input type="checkbox"/> 北海道博物館試験研究費 (北方文化研究) [1,782 千円] ※アイヌ民族文化研究センターの研究プロジェクト研究費は、北海道博物館事業費 (アイヌ民族文化研究センター・調査研究費) [1,182 千円] として計上 (→「15 アイヌ民族文化研究センターの事業」を参照のこと)					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点④】「榊太記憶継承事業」(榊連資料を活用した調査研究) の実施推進 [道費による研究]				
	一般項目	<input type="checkbox"/> 【ア】北海道の自然・歴史・文化総合研究プロジェクトの実施推進 [道費による研究：4 課題] <input type="checkbox"/> 【ア】アイヌ民族文化研究センターの研究プロジェクトの実施推進 [道費による研究：2 課題] <input type="checkbox"/> 【イ】道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクトの実施推進 [道費による研究：5 課題] <input type="checkbox"/> 【ア】【ウ】科学研究費による研究の実施推進 [競争的外部資金による研究：13 課題+α 見込み] <input type="checkbox"/> 【ア】【ウ】科学研究費以外の競争的外部資金による研究の実施推進 [競争的外部資金による研究：2 課題] <input type="checkbox"/> 【エ】北東アジアのなかの北海道研究プロジェクトの実施推進 (サハリン州郷土博物館、ロイヤル・アルバータ博物館との共同研究・学術交流の推進) [道費による研究：2 課題] <input type="checkbox"/> 【オ】研究課題評価の実施 [道費による研究：13 課題] <input type="checkbox"/> 【オ】館内定例研究報告会の実施 [年間 12 回]				
前年度との主な変更点	・道費による研究プロジェクトの計画・実施・評価体制を強化するため「研究課題評価の実施」を新たに追加。 ※その他は博物館基盤 G から移管					
直近の協議会評価意見 に対する取り組み	・研究業績や研究プロジェクトの内容の具体的な表記や、その目標管理に関する資料が少ない、との意見を踏まえ、「研究課題評価の実施」を新たに計画に加えた。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	水島未記	個別評価項目		個別評価
	A	【説明】 コロナ禍のため、令和3年度も計画どおりに研究が進む可能性はあまり高くないが、できる範囲でそれぞれの調査研究を進めることが大事である。年度計画としては妥当であると判断できる。		中期目標・計画との整合性		a
				年度計画の適切性		a
				協議会評価意見の反映		a
実現の可能性				b		
第二次自己評価	総括評価	学芸部長	堀 繁久	評価完了日	令和3年4月15日	
	A	【意見】 緊急事態宣言の発令による移動の自粛などにより、各研究プロジェクトが円滑に研究を進められるかどうか未定の部分があるが、計画と評価は妥当であると判断できる。				

令和3年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号	4	所管 G	企画 G			
項目名	北海道開拓の村の整備					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	東俊佑	池田貴夫		2,002 (12,778)	2,530 (70,670)	
予算計上	□開拓の村費（開拓の村老朽度調査）[2,530 千円] □文化振興事業費（開拓の村火災等発生対策費）[68,140 千円、時限付き] ※開拓の村建造物の実施設計及び改修工事は、建設部計上の開拓の村改修工事 [28,182 千円] により建設部が執行予定。					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点①】【ウ】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」(平成 30 年 12 月策定) に関わる北海道開拓の村のあり方の具体的取組の検討				
	一般項目	【ア】北海道開拓の村歴史建造物の補修工事実施設計(発注:建設部、指導・助言:博物館)[年間 2 件程度] 【ア】北海道開拓の村歴史建造物の老朽度調査[年間 2 件程度] 【ア】北海道開拓の村歴史建造物のメンテナンス[随時] 【ア】北海道開拓の村歴史的建造物等の補修計画の検討・調整・作成(計 52 棟+インフラ) 【イ】北海道開拓の村歴史的建造物の内部展示および展示資料の管理(随時、基盤 G と連携して実施) 【イ】北海道開拓の村歴史的建造物の内部展示改修・改訂計画の検討・調整・作成(計 52 棟) 【イ】スマートフォンを利用した展示解説アプリ「ポケット学芸員」による多言語解説サービス運用・検証・改善 [6 カ国語、110 コンテンツ]				
前年度との主な変更点	・開拓の村の今後のあり方の具体的取組を検討し、必要な予算要求を行っていく必要があることから、重点項目に新たに追加した。					
直近の協議会評価意見に対する取り組み	・協議会委員からは、50 年先を見据えて野幌森林公園エリアの将来ビジョンを示し、具体的な検討を進めるべきとの意見をいただいている。実現の可否に関わらず、館職員として、具体的な構想を議論し、あるべき理想的な姿を取りまとめておく必要がある。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	池田貴夫	個別評価項目	個別評価
	A	【説明】 上記計画は概ね妥当である。文化振興課と連携し、早急に開拓の村維持・活用方針を定め、「構想」を実現していくための中長期的な取組に着手していく必要がある。		中期目標・計画との整合性	a
				年度計画の適切性	a
				協議会評価意見の反映	a
実現の可能性				a	
第二次自己評価	総括評価	総務部長	川田宣人	評価完了日	令和3年4月15日
	A	【意見】 開拓の村の現状と課題を踏まえ、計画が練られているものと判断できる。			

令和3年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号	5	所管 G	道民サービス G			
項目名	教育普及事業					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	遠藤志保	三浦泰之		671	1,222	
予算計上	<input type="checkbox"/> 北海道博物館事業費（魅力あるイベント事業）[382 千円] <input type="checkbox"/> 【重点・新規】北海道博物館特別展（記念フォーラム）[840 千円] ※解説員（一般職非常勤職員）及び会計年度任用職員の人件費は除く。					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点①】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（平成 30 年 12 月策定）に関わる教育普及事業のあり方の具体的取組の検討				
	一般項目	(1) 魅力あるイベントの充実 【ア】【イ】【ウ】一般普及行事の実施推進 [年間 50 回程度] 【ア】【イ】総合展示室等で行うイベントの実施推進 [随時] 【ア】「ちゃれんがラリー」の実施と検証・改善・拡充 [常時] 【ア】【イ】【ウ】次年度普及行事実施計画の作成 【エ】「情報デスク」を活用した交流・誘導 [常時] 【エ】解説員による総合展示の展示解説 [常時] 【エ】解説員等による展示室・はっけん広場等の展示解説活動の今後のあり方の検討 (2) 社会的ニーズに合わせた教育普及事業の充実 【ア】学校団体および一般団体を対象とした「グループレクチャー」の実施 [10 メニュー] 【ア】はっけん広場における学校団体等を対象とした「はっけんプログラム」の実施 [6 メニュー] 【イ】「ポケット学芸員」による多言語解説サービスの運用・検証・改善・拡充 【イ】展示解説器（音声ガイド）を利用した多言語解説サービスの運用・検証・改善・拡充 【イ】総合展示解説書「ビジュアル北海道」の検証と、ワークブック、新しい展示解説書の作成検討 【イ】総合展示室における子ども向け展示解説の検討 【イ】ウェブサイト内「はくぶつかんであそぼう！子どものページ」の内容検討・更新 【イ】視覚障がい者向け「さわれる博物館キット」の運用・検証・改善・拡充 【イ】オンライン事業「おうちミュージアム」の運用・検証・改善・拡充 (3) はっけん広場の運営 【ア】解説員によるはっけん広場の展示解説 [常時] 【ア】【イ】「はっけんイベント」の実施 [年間 7 メニュー] 【イ】「はっけんキット」の運用 [41 メニュー] 【ウ】学校教育用補助教材の貸出と開発の推進				
前年度との主な変更点	<ul style="list-style-type: none"> これまで恒常的に実施してきた「次年度普及行事実施計画の作成」を頭出し。 第 3 期中期目標・計画作成の懸案事項となっている「解説員等による展示室・はっけん広場等の展示解説活動の今後のあり方の検討」を新たに追加。 これまでの懸案事項となっている「子ども向け展示解説の検討」「ウェブサイト内「はくぶつかんであそぼう！子どものページ」の内容検討・更新」を新たに追加。 一昨年度末より開始した「オンライン事業「おうちミュージアム」の運用・検証・改善・拡充」を新たに追加。 一昨年度末より本格的に開始した「学校教育用補助教材の貸出と開発の推進」を新たに追加。 					
直近の協議会評価意見 に対する取り組み	・とくに該当意見なし。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	三浦泰之	個別評価項目	個別評価
	Ⓐ B C	【説明】 新型コロナウイルス感染症の感染拡大という状況の中、対面型・接触型の事業の中止や臨時休館による事業の縮小などの可能性も想定されるが、年度計画などについては適切と考えられる。		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c
				年度計画の適切性	Ⓐ b c
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c
			実現の可能性	a Ⓑ c	
第二次自己評価	総括評価	学芸部長	堀 繁久	評価完了日	令和3年4月 15 日
	Ⓐ B C	【意見】 今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況の変化の中、事業の中止や縮小などの可能性もあるが、年度計画等については概ね適切と判断される。			

令和3年度 博物館評価調査書

中期目標・計画番号		6	所管 G	道民サービス G		
項目名		ミュージアムエデュケーター機能の強化				
計画策定担当者		学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度
		遠藤志保	三浦泰之		0	0
予算計上						
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【ウ】新学習指導要領を踏まえた小学校、中学校、高等学校、特別支援学校児童・生徒の主体的・対話的で深い学びをサポートするための具体的取組の検討				
	一般項目	【ア】文化庁や北海道博物館協会（およびそのブロック組織）等において実施されるミュージアムエデュケーター養成関連研修会への職員派遣の調整 [都度実施] 【ア】博物館職員の教育普及活動向上に必要な館内研修会等の企画の検討 【ア】解説員研修の実施 [都度実施] 【イ】学校団体の博物館利用を促進するための学校教職員向け「博物館教育プログラム研修会」の実施 [年間 1 回、8 月、対象：学校教員等] 【イ】学校団体の博物館利用を促進するための学校教職員、及び旅行会社向け下見対応の実施 [年間 30 件程度] 【イ】学校団体の博物館利用を促進するための「学校利用ガイド」の編集・刊行 [年 1 回] 【イ】学校団体向けワークシートの運用・検証・改善・拡充				
前年度との主な変更点		・新規検討事項として「新学習指導要領を踏まえた小学校、中学校、高等学校、特別支援学校児童・生徒の主体的・対話的で深い学びをサポートするための具体的取組の検討」を追加した。				
直近の協議会評価意見に対する取り組み		・ミュージアムエデュケーター関連の研修で得た知識等の共有の仕組みを検討する必要があるとの意見を踏まえ、「博物館職員の教育普及活動向上に必要な館内研修会等の企画の検討」を計画に新たに追加した。				

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	三浦泰之	個別評価項目		個別評価
	A B C	【説明】 新型コロナウイルス感染症の感染拡大という状況の中、対面型・接触型の事業の中止や臨時休館による事業の縮小などの可能性も想定されるが、年度計画などについては適切と考えられる。	中期目標・計画との整合性		a b c	
			年度計画の適切性		a b c	
			協議会評価意見の反映		a b c	
実現の可能性			a (b) c			
第二次自己評価	総括評価	学芸部長	堀 繁久	評価完了日	年 月 日	
	A B C	【意見】 今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況の変化の中、事業の中止や縮小などの可能性もあるが、年度計画等については概ね適切と判断される。				

令和3年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号	7	所管 G	総括 G			
項目名	施設及び周辺環境の整備					
計画策定担当者	主査	主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	三國正雄	川田宣人		356,084	359,629	
予算計上	<input type="checkbox"/> 北海道博物館管理運営費 [346,643 千円、指定管理負担金 (博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館、森林公園含む)] <input type="checkbox"/> 野幌森林公園管理費 (庁舎等維持費) [3,986 千円] <input type="checkbox"/> 野幌森林公園施設整備費 [9,000 千円]					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点①】【(3)】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」(平成 30 年 12 月策定)に関わる具体的取組の検討				
	一般項目	(1) 館内施設の整備と活用 <input type="checkbox"/> オリジナルグッズの開発など博物館の魅力アップの取組 <input type="checkbox"/> 老朽化した施設・設備の補修に向けた検討・取組 <input type="checkbox"/> 年齢、母語、障がいの有無などを問わず快適に利用できるユニバーサル・ミュージアムをめざすための総合展示室その他館内における施設・設備の整備に向けた検討・取組 <input type="checkbox"/> 屋上スカイビューの特別開放を実施 [年間 10 回] <input type="checkbox"/> 記念ホールの開放 [随時] (2) 周辺環境の整備 <input type="checkbox"/> JR 北海道、JR 北海道バス、指定管理者等と連携し、アクセス向上に向けた検討・取組 <input type="checkbox"/> サインの統一化に向けた検討・取組 <input type="checkbox"/> 野外展示の具体化に向けた検討・取組 <input type="checkbox"/> 野幌森林公園内の危険木の処理および老朽化した設備の改修 <input type="checkbox"/> 平成 30 年度の台風被害や令和元年度のヒグマ出没等をふまえ、野幌森林公園の健全性と安全性の確保に向けた検討・取組 (3) 野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進 <input type="checkbox"/> 関係機関との連絡会議・協議会への参加				
前年度との主な変更点	・とくに変更なし。					
直近の協議会評価意見に対する取り組み	・とくに該当意見なし。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	主幹	川田宣人	個別評価項目	個別評価
	Ⓐ B C	【説明】 令和 2 年度同様、新型コロナウイルス感染症拡大の状況が続き、施設の活用等の項目において事業縮小の可能性も想定されるが、年度計画については適切と考える。		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c
				年度計画の適切性	Ⓐ b c
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c
実現の可能性				a Ⓑ c	
第二次自己評価	総括評価	総務部長	川田宣人	評価完了日	令和 3 年 4 月 15 日
Ⓐ B C	【意見】		同上		
	同上				

令和3年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号	8	所管G	道民サービスG			
項目名	広報					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	青柳かつら	三浦泰之		663	599	
予算計上	□北海道博物館事業費(広報サービス事業費)[599千円] ※上記は印刷製本費。発送費は、野幌森林公園管理費(庁舎等維持費)のなかの通信運搬費[540千円]より発送分を使用。					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【(1)ア】修学旅行その他団体旅行の誘致に向けた検討・取組				
	一般項目	<p>(1) 広報活動の強化</p> <p>【ア】報道機関等への対応(新聞、雑誌、テレビ、ラジオほか)[掲載・報道見込:年間延べ400件程度]</p> <p>【ア】報道機関等へ戦略的に働きかけていく広報活動の実施</p> <p>【ア】各種広報媒体への学術的な情報や知見の提供(協力、寄稿、出演等)の推進[年間延べ100件程度]</p> <p>【ア】招待講演(講座・講演会)等への職員派遣に伴う道民と直に接する広報活動の推進</p> <p>【ア】ICTを活用した広報(ウェブサイト、Twitter等による展示、教育普及、その他博物館活動に関する情報の発信)の実施(年間200回程度)</p> <p>【ア】広報誌『森のちゃれんがニュース』の編集・発行・配布(年間4回(季刊)刊行)</p> <p>【ア】『行事あんない』の編集・発行・配布(年間2回(前期・後期)刊行)</p> <p>【ア】特別展ポスター、チラシの編集・作成・配布(年間1回)</p> <p>【ア】企画テーマ展ポスター、チラシの編集・作成・配布(年間3回)</p> <p>【ア】特別イベント等のポスター、チラシの編集・作成・配布(年間1回程度)</p> <p>【ア】各種印刷・刊行物の発送・配布(年間7回程度)</p> <p>【ア】海外に向けた情報発信の強化に向けた検討</p> <p>【イ】愛称やロゴマークの積極的活用</p> <p>【イ】愛称およびロゴマークの浸透に向けた取組に連動し、北海道博物館の建物そのものが「森のちゃれんが」として見て美しい建物として認知され、ブランド化されていくための検討</p> <p>(2) 他機関との連携による広報活動の強化</p> <p>【 】北海道生涯学習協会と連携した一般普及行事の「道民カレッジ連携講座」への登録申請(年間2回)</p> <p>【 】他機関との連携による広報活動の実施(年間5件程度)</p>				
前年度との主な変更点	<ul style="list-style-type: none"> これまで恒常的に実施していた業務を計画に頭出しした。 赤れんが庁舎のリニューアル事業と連動した北海道博物館のPRは、令和3年度に実施予定がないので削除した。 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により落ち込んだ団体利用を回復させることを見込んで(コロナ収束を見据え)、「修学旅行その他団体旅行の誘致に向けた検討・取組」を重点目標に設定した。 					
直近の協議会評価意見に対する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> SNSを活用した広報強化のため、広報主担当の事務スタッフの配置、もしくは学芸員・事務職員全体による交代・分担体制の検討を進めるようにとの意見を踏まえ、今年度より広報担当職員を3名→4名体制とした。 					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	三浦泰之	個別評価項目		個別評価
	Ⓐ B C	【説明】 新型コロナウイルス感染症の感染拡大という状況の中、対面型・接触型の事業の中止や臨時休館による事業の縮小などの可能性も想定されるが、年度計画などについては適切と考えられる。		中期目標・計画との整合性		Ⓐ b c
				年度計画の適切性		Ⓐ b c
				協議会評価意見の反映		Ⓐ b c
実現の可能性				a Ⓑ c		
第二次自己評価	総括評価	学芸部長	堀 繁久	評価完了日	令和3年4月15日	
	Ⓐ B C	【意見】 今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況の変化の中、事業の中止や縮小などの可能性もあるが、年度計画等については概ね適切と判断される。特に速報性の高いSNS等を通じた広報はコロナの状況で変化する事業の周知で重要と考える。				

令和3年度 博物館評価調書

中期目標・計画番号	9	所管 G	企画 G			
項目名	評価制度の活用と利用者ニーズの把握					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	東俊佑	池田貴夫		416	416	
予算計上	【環境生活部総務課計上】 □総務管理諸費(各種審議会経費:北海道立総合博物館協議会)[416千円]					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【イ】 出口調査・追跡調査によるオーディエンス・リサーチ(利用者調査)の実施[年1回程度]				
	一般項目	(1)評価制度の活用 【ア】 前年度の事業実績の取りまとめの推進 【ア】 「博物館総合評価」における自己評価の実施推進・運営[事前評価1回、事後評価1回] 【ア】 『要覧』の編集・刊行[年1回] 【イ】 「北海道立総合博物館協議会」による調査審議、外部評価、自己評価、オーディエンス・リサーチに基づいた事業改善ならびに次年度年度計画の作成 【ウ】 「北海道立総合博物館協議会」の開催(年間2回)による調査審議と外部評価の実施推進・運営 【ウ】 「北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会」の開催(年間1回)による調査審議と外部評価の実施推進・運営 (2)利用者ニーズの把握 【イ】 特別展、企画テーマ展、アイヌ文化巡回展期間の来館者アンケート調査による利用者ニーズの把握および利用者満足度の測定・分析 【イ】 利用者満足度調査による利用者ニーズの把握および利用者満足度の測定・分析(秋期の一定期間実施) 【イ】 解説員活動日誌による利用者ニーズ・意見の把握・分析(開館日毎日) 【イ】 図書室業務日誌による利用者ニーズ・意見の把握・分析(開館日毎日) 【イ】 アイヌ文化Q & A(総合展示室第2テーマ)による利用者ニーズ・意見の把握・分析(開館日毎日) 【イ】 指定管理者日報による利用者ニーズ・意見の把握・分析(開館日毎日) 【イ】 口頭・電話・メール・手紙等の受理による利用者ニーズ・意見の把握(開館日毎日)				
前年度との主な変更点	・令和2年度に実施できなかった「オーディエンス・リサーチ(利用者調査)の実施」を重点項目とした。 ・令和3年度から新たに実施する「博物館総合評価」における自己評価の実施推進・運営を新たに追加した。 ・『要覧』の編集・刊行を頭出しした。					
直近の協議会評価意見に対する取り組み	・ガバナンスの姿が見えない、評価制度や協議会のあり方を見直すべきとの意見を踏まえ、令和2年度に評価制度の見直しを行い、令和3年度より新たな評価の仕組みのもと、博物館の自己点検評価、協議会評価(外部評価)を行うこととした。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	池田貴夫	個別評価項目		個別評価
	A	【説明】 新たな評価制度のもと、実績取りまとめ→要覧作成→自己点検評価→協議会評価→次年度年度計画作成のサイクル確立が令和3年度の大きな課題である。オーディエンス・リサーチはコロナ禍のため実現可能性が不透明。		中期目標・計画との整合性	a	
				年度計画の適切性	a	
				協議会評価意見の反映	a	
実現の可能性	b					
第二次自己評価	総括評価	総務部長	川田宣人	評価完了日	令和3年4月15日	
	A	【意見】 協議会意見を踏まえ、適切に計画が作成され、事前評価が適切に行われていると判断できる。				

令和3年度 博物館評価調書

中期目標・計画番号	10	所管G	企画G			
項目名	道民参加の推進					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	東俊佑	池田貴夫		0	0	
予算計上						
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	<p>【中期目標・計画/重点②】【ア】【イ】 道民参加型学習サークル活動の推進（各研究Gへのサークル立ち上げへの働きかけ）</p> <p>【中期目標・計画/重点②】【ア】【イ】 小中学生以下の子どもを対象としたジュニアクラブ活動の推進（各研究Gへのサークル立ち上げへの働きかけ）</p> <p>【中期目標・計画/重点②】【ア】 第3期中期目標・計画期におけるボランティア活動の導入を含めた総合展示室、はっけん広場、図書室等での利用者対応組織の検討（道民サービスGと連携し、検討ワーキンググループを立ち上げ）</p> <p>【中期目標・計画/重点】【ウ】 北海道博物館の各種活動に協働参画しかつ館長の諮問に応える支援組織（ミュージアム・パートナー：旧開拓記念館のミュージアム・メイト）の整備に向けた検討</p>				
	一般項目	<p>【ア】【イ】 道民参加型学習サークル活動の推進（道民サービスGと連携）</p> <p>【ア】 博物館基盤整備に係るボランティア活動の推進（博物館基盤Gと連携）</p> <p>【ア】 道民参加型調査研究の推進（研究戦略Gと連携）</p> <p>【ア】 道民参加型展示の推進（博物館基盤Gと連携）</p> <p>【ア】 ウェブサイト内「博物館の活動に参加しよう」の内容検討・更新</p> <p>【イ】 博物館実習生が企画・作成する展示コーナーの運営（年間夏期1回実施）</p>				
前年度との主な変更点	<p>・道民参加を促進するため、サークル立ち上げの推進、ジュニアクラブ活動の推進、ボランティア活動導入検討、支援組織整備検討を重点項目として新たに追加した。</p>					
直近の協議会評価意見に対する取り組み	<p>・第1期中期目標・計画期に大きな進展が見られなかった道民参加型組織の整備について、本格実施を第3期（令和7年度～）と見据えながら、この第2期中に試行的にいくつかの活動をスタートさせるべく、令和3年度計画の重点項目にいくつかの項目を顕出した。</p>					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	池田貴夫	個別評価項目		個別評価
	A	<p>【説明】</p> <p>コロナ禍のため、道民参加型活動の推進は困難な状況であり、計画実現の可能性は決して高くないが、「高い目標を掲げて試験的にスタートさせてほしい」との協議会意見を踏まえた計画であると判断する。</p>		中期目標・計画との整合性	a	
				年度計画の適切性	a	
				協議会評価意見の反映	a	
実現の可能性	b					
第二次自己評価	総括評価	総務部長	川田宣人	評価完了日	令和3年4月15日	
A	<p>【意見】</p> <p>実現可能性は決して高くはないが、協議会での意見は計画に反映されていると判断できる。</p>					

令和3年度 博物館評価調書

中期目標・計画番号	11	所管 G	企画 G			
項目名	博物館ネットワーク					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	東俊佑	池田貴夫		75	70	
予算計上	【環境生活部総務課計上】 □総務管理諸費（各種負担金：公益財団法人日本博物館協会会費）[55 千円] □総務管理諸費（各種負担金：北海道博物館協会会費）[15 千円] ※北海道博物館協会の運営（事務局館）に係る経費は、北海道博物館協会から支出。					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【ア】全国博物館大会（11月17～18日開催予定）の事務局館としての庶務 【中期目標・計画/重点③】【(2)ア】国立アイヌ民族博物館との連携による北海道内博物館の活性化に向けた検討 (道内博物館への誘客促進、今後の連携・協働・役割分担についての協議)（アイヌ民族文化研究センターと連携）				
	一般項目	(1) 各種博物館団体との連携 【ア】日本博物館協会との連携・協力、北海道支部の運営 【ア】全国歴史民俗系博物館協議会との連携・協力 【イ】北海道博物館協会との連携・協力 【イ】北海道博物館協会の運営（担当職員が事務局を兼務して執行） 【イ】北海道博物館協会学芸職員部会への職員の積極的参画の促進 (2) 博物館交流の促進 【ア】周辺施設とのネットワーク事業の実施 [年間 3 件程度] 【ア】外部主催イベントへの参画 [年間 3 件程度] 【イ】北海道博物館協会と連携した学芸職員対象の研修会の開催検討（学芸職員部会との連携）				
前年度との主な変更点	・令和3年度のみ業務として「全国博物館大会の事務局館としての庶務」を重点項目とした。 ・第2期中期目標・計画の(1)ーイを実現するため「北海道博物館協会学芸職員部会への職員の積極的参画の促進」を新たに加えた。 ・第2期中期目標・計画の(2)ーイを実現するため「北海道博物館協会と連携した学芸職員対象の研修会の開催検討」を新たに加えた。					
直近の協議会評価意見 に対する取り組み	・とくに該当意見なし。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	池田貴夫	個別評価項目		個別評価
	A	【説明】 コロナ禍のため、博物館大会や研修会の開催実現が不透明であるが、従前どおり各種博物館団体や博物館交流を促進していくことが大事である。全国博物館大会を成功に導くことが令和3年度の重要課題である。		中期目標・計画との整合性	a	
				年度計画の適切性	a	
				協議会評価意見の反映	a	
			実現の可能性	b		
第二次自己評価	総括評価	総務部長	川田宣人	評価完了日	令和3年4月15日	
	A	【意見】 当館の使命の一つである北海道の中核的な博物館としての役割を果たしていくことが重要である。年度計画は適切につくられ、適切に自己点検がなされているものと判断できる。				

令和3年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号	12	所管G	博物館基盤G			
項目名	情報発信					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	櫻井万里子	鈴木琢也		7,642 (8,322)	5,338 (6,018)	
予算計上	□文化振興事業費(北海道博物館事業費:情報システム整備費、総合政策部計上)[5,338千円] ※図書購入費は、北海道博物館試験研究費(情報集積推進事業)のなかの図書購入費[680千円]を充当					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【(1)ア】 収蔵資料データベースに登録する情報(デジタルカメラによる写真撮影、ネガフィルムのスキャン、資料情報内容の調査等)の拡充推進(各研究Gへの働きかけ) 【(1)ア】 収蔵図書(道内外の博物館展示会図録等を含む)の整理とデータベース登録 【(1)ア】 北海道博物館(旧開拓記念館、旧センター含む)刊行物(特別展図録、研究紀要、ニュースレター等)のスキャンによるアーカイブ化の検討 【(1)イ】 収蔵資料データベース、収蔵図書データベース、刊行物アーカイブの公開のあり方検討				
	一般項目	(1) 情報発信機能の強化 【ア】 情報システム(収蔵資料データベース)の保守・管理 【イ】 情報システムを活用した関係機関(道内外博物館、文書館、図書館等)とのネットワーク構築に向けての検討(道民サービスGと連携) 【ウ】 『北海道博物館資料目録』刊行実施計画作成と執筆推進・編集・刊行 (2) 道民の「知りたい」気持ちへの支援 【ア】 収蔵図書の充実[年度末時蔵書数見込 153,000冊程度] 【ア】 図書ボランティア制度の運用 【イ】 図書室の開架部分のレイアウトや表示等を工夫し一般来館者が気軽に利用しやすい環境を整備[年間利用者見込 3,500人程度(うち図書室のみの利用者 35人程度)] 【イ】 企画展示および総合展示の理解を深めるための図書展示コーナーの更新・運営(年間6回程度) 【ウ】 各機関、個人からの問い合わせなどのレファレンス対応と推進[年間見込 560件程度] 【ウ】 レファレンスの窓口一元化(ICTを活用したレファレンスなど)と効率化(よくある問い合わせQ&Aの開設など)による機能強化に向けた検討 【ウ】 関係機関(道内外博物館、文書館、図書館など)との連携によるレファレンスの検討				
前年度との主な変更点	・令和2年度に情報システムを更新し、情報発信強化のための博物館情報の基盤整備を促進させる必要があることから、「収蔵資料データベースに登録する情報の拡充推進」、「収蔵図書の整理とデータベース登録」、「北海道博物館刊行物のスキャンによるアーカイブ化の検討」「収蔵資料データベース、収蔵図書データベース、刊行物アーカイブの公開のあり方検討」を新たに頭出しし、重点項目とした。					
直近の協議会評価意見に対する取り組み	・道民の知的興味に応える博物館づくりにおいて、ICT利用の情報発信能力の向上の対応を迅速にする課題がある、ネットワークを活かした情報発信力がまだ足りない、研究業績や研究プロジェクトの成果情報の発信を強化してほしい、博物館としてのプライオリティを高くした方がよい、との意見を踏まえ、博物館情報基盤整備を重点項目とした。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	鈴木琢也	個別評価項目	個別評価
	Ⓐ B C	【説明】 協議会での情報発信強化の意見をふまえ、その基盤整備等を計画しており、適切な年度計画が策定されている。一方、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によっては図書室の利用者数などが縮小する可能性も想定される。		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c
				年度計画の適切性	Ⓐ b c
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c
実現の可能性				a Ⓑ c	
第二次自己評価	総括評価	学芸部長	堀 繁久	評価完了日	令和3年4月15日
	Ⓐ B C	【意見】 今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況の変化の中、事業の中止や縮小などの可能性もあるが、情報発信の基盤整備等の年度計画については概ね適切と判断される。			

令和3年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号	13	所管 G	企画 G			
項目名	人材育成機能の強化と社会貢献					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	東俊佑	池田貴夫		0	0	
予算計上						
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【(3)】当館職員、とりわけ若手学芸職員の博物館に関する知識と技術力、及び研究力を高め、将来の博物館機能の向上に結びつける。また、そのために必要な支援の拡充に努めるための検討。				
	一般項目	<p>(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ 【ア】博物館実習生やインターンシップの受入れ [年間 15 人程度] 【ア】職場体験・見学実習の受入れ [年間 10 件、延べ 100 人程度] 【イ】高校・大学等のニーズに応じた当館職員の講師としての派遣</p> <p>(2) 外来研究員の受入 【 】外来研究員(外部研究者や大学院生等)の受入に関する検討・取組・制度整備</p> <p>(3) 当館職員の資質向上 【 】博物館学系研修会や技術研修会への当館職員の参加 [年間見込 10 件、延べ 20 人程度]</p> <p>(4) 職員の対外貢献 【 】招待講演(講座・講演会)等への職員派遣、各種委員・非常勤講師への就任、学術的な協力(指導助言等)、執筆依頼等 [年間 70 件程度]</p> <p>(5) 外部機関との事業連携 【 】他機関等との連携・協力 [年間 20 件程度]</p> <p>(6) 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献 【ア】【ウ】アイヌ民族の歴史や文化、和人の歴史や文化、北海道における自然と人との関わり、そしてそれらを総合的に捉え持続可能な共生社会を模索する政策の推進 【イ】「北海道総合計画」(平成 28 年度～令和 7 年度)などとリンクし、北海道が抱える諸問題の解決、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりへと結びつく研究・博物館活動を推進</p>				
前年度との主な変更点	<ul style="list-style-type: none"> 当館学芸職員 28 名(欠員 2 名)のうち 11 名は 2015 年北海道博物館開設後に採用され、勤続 7 年以下の若手職員であり、今後も順次世代交代が進むことが予想され、若手職員の育成は当館の最重要課題である。対外的な社会貢献の役割を果たすためにも、それを円滑に進めるための当館職員の人材育成は喫緊の課題であることから、重点項目とした。 博物館実習生の受け入れは、新型コロナウイルス感染症拡大対策の観点から、前所管 G からの引き継ぎで令和 3 年度は上限 15 名とした。 					
直近の協議会評価意見に対する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 「外来研究員の受け入れについて、早期に実現されることを期待したい」との意見を踏まえ、早急に検討する必要がある(※ただし、予算を伴う制度となる場合の早期実現は困難である)。 					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	池田貴夫	個別評価項目		個別評価
	A	【説明】 若手職員の育成など、当館の課題が適切に盛り込まれている。オンラインでの研修参加を含め、計画を推進していけるものと判断した。対外貢献等においても、オンライン対応が普及しており、実現可能な計画と考える。		中期目標・計画との整合性		a
				年度計画の適切性		a
				協議会評価意見の反映		a
実現の可能性				a		
第二次自己評価	総括評価	総務部長	川田宣人	評価完了日	令和3年4月15日	
	A	【意見】 コロナ禍のため、例年通りの実績となるかは不透明な状況である。ただ、計画と自己点検評価については適切であり、例年どおりの計画の実現に向けて実績を積み上げていくことが大切であると判断し、A 評価とした。				

令和3年度 博物館評価調書

中期目標・計画番号	14	所管G	研究戦略G			
項目名	研究成果の発信					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	大坂 拓	水島未記		599 (1,198)	599 (1,198)	
予算計上	<p>□北海道博物館試験研究費（研究成果の集約・発信）[599千円] ※上記は、主に『北海道博物館研究紀要』の刊行費。 ※『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』刊行費は、北海道博物館事業費（アイヌ民族文化研究センター・調査研究）により実施 [599千円]。→「15 アイヌ民族文化研究センターの事業」を参照のこと。</p>					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【(1)】各種研究成果を『研究紀要』その他刊行物等を通じて効果的に発信していくための実施検討。				
	一般項目	<p>(1) 学術刊行物などの刊行 【ア】『北海道博物館研究紀要』投稿原稿の執筆推進と編集・刊行（年間1回） 【ア】『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』投稿原稿の執筆推進と編集・刊行 【イ】職員の研究成果をわかりやすくまとめた刊行物等（叢書、新書、ブックレット、総合展示専門解説書等）の刊行の検討</p> <p>(2) 学会への発信 【 】学会誌等、館出版物以外の出版物への執筆推進 [年間35件程度] 【 】学会、研究会等での発表推進 [年間20件程度]</p>				
前年度との主な変更点	<p>・中期目標・計画に照らし合わせて、「各種研究成果を『研究紀要』その他刊行物等を通じて効果的に発信していくための実施検討」、「職員の研究成果をわかりやすくまとめた刊行物等（叢書、新書、ブックレット、総合展示専門解説書等）の刊行の検討」を新たに追加。</p>					
直近の協議会評価意見に対する取り組み	<p>・とくに該当意見なし。</p>					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	水島未記	個別評価項目		個別評価
	A	【説明】 コロナ禍のため、出張をともなう調査研究活動に支障の出る可能性はあるが、年度末の2つの『紀要』の刊行には影響はないものと判断できる。計画は適切につくられたと判断した。		中期目標・計画との整合性		a
				年度計画の適切性		a
				協議会評価意見の反映		a
実現の可能性				a		
第二次自己評価	総括評価	学芸部長	堀 繁久	評価完了日	令和3年4月15日	
	A	【意見】 適切に計画作成、自己評価が行われたものと判断できる。				

令和3年度 博物館評価調査書

中期目標・計画番号	15	所管 G	アイヌ民族文化研究センター			
項目名	アイヌ民族文化研究センターの事業					
計画策定担当者	研究主幹	センター長	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	甲地利恵	小川正人		3,288	3,091	
予算計上	<input type="checkbox"/> 北海道博物館事業費（アイヌ民族文化研究センター分）〔資料保存管理：1,630 千円、調査研究：1,182 千円、広報：279 千円〕 <input type="checkbox"/> このほか、総合政策部計上の【拡充】アイヌ文化情報発信強化事業〔12,610 千円、財源：地方創生推進交付金、時限付き〕の一部を使用予定。					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点③】ウポボイ（民族共生象徴空間）とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携を含めた北海道内博物館の活性化貢献に向けた検討・取り組み				
	一般項目	(1) アイヌ文化に関わる調査研究とその成果の普及 <調査研究> 【ア】【イ】 アイヌ民族文化研究センターが主体となって立案し実施する研究プロジェクトの推進〔道費による研究：2 課題〕 【ア】【イ】 北海道博物館全体で取り組む海外との共同研究等の研究プロジェクトへの参画と推進 【ア】【イ】 日本学術振興会科学研究費補助金など外部資金を活用したアイヌ文化関連調査研究の推進 【中期目標・計画/重点④】北海道博物館で取り組む樺太記憶継承事業への参画（樺太連盟資料の受入と整理の開始） <資料の収集と整理・公開> 【イ】 アイヌ文化に関する資料の収集と整理の推進 【ウ】 採録等による資料についての公開計画の策定とこれに基づく公開の実施（諸手続含む） 【イ】【エ】 アイヌ文化関係資料のデジタル化・情報発信の促進 <研究成果の発信と普及> 【エ】『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』の編集計画の策定と投稿の奨励・推進 【エ】館内外における教育普及事業（講座、ワークショップ等）を通じた研究成果の発信や理解促進・教育普及の取り組み 【エ】当館における企画展示の立案・実施（第 18 回企画テーマ展（アイヌ工芸品展）を予定） 【エ】当館における展示資料の入替及び総合展示内クローズアップ展示の更新 【エ】道内市町村と連携・協力した「アイヌ文化巡回展」の開催（幕別町、長万部町） 【エ】アイヌ文化紹介小冊子『ボン カンピソッ』（全 1～9 巻）の増刷・配布〔都度実施〕 【エ】広報誌『森のちゃれんがニュース』の「アイヌ民族文化研究センターだより」などを通じたアイヌ民族文化研究センターの活動に係る情報の発信 (2) アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信・研究支援 【ア】アイヌ文化に関する学術情報（収蔵資料データ、調査データ、文献情報等）の集約 【ア】「アイヌ語アーカイブ」など当館ウェブサイトにおける情報発信 <対外支援・社会貢献、博物館等のネットワーク> 【イ】市町村やアイヌ文化伝承活動団体等からの、アイヌ文化の学習や伝承活動、展示等の事業に関する依頼・照会に対する、専門的見地から助言・支援・協力等。 【ア】国立アイヌ民族博物館によるネットワーク事業への参画				
前年度との主な変更点	・特段の変更はなく、前年度に引き続き、中期目標・計画に基づき個別の事業の年度計画を策定し実施する。					
直近の協議会評価意見 に対する取り組み	・資料・情報の収集整理、発信、公開などの遅延、目標設定と計画設計の見直しについての評価意見を踏まえ、資料整理については、年度当初に課題と計画を検討する場を設け、担当の分担及び整理・公開等のスケジュールや期限をより明確にした計画をたてるようにした。 ・国立アイヌ民族博物館との連携や役割分担に関する指摘を踏まえ、同博物館を中心とするネットワークへの参加など、意見交換の機会を広げている。					

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	研究主幹	甲地利恵	個別評価項目		個別評価
	Ⓐ B C	【説明】 感染症拡大下で出張を伴う調査等の時期についてはなお流動的であるが、柔軟な変更が可能ないように個別の研究課題や担当資料の整理作業等、具体的な計画の立案と検討を図り、進めていける見通しである。		中期目標・計画との整合性	Ⓐ b c	
				年度計画の適切性	Ⓐ b c	
				協議会評価意見の反映	Ⓐ b c	
			実現の可能性	Ⓐ b c		
第二次自己評価	総括評価	センター長	小川正人	評価完了日	令和3年4月15日	
	Ⓐ B C	【意見】資料の整理・公開（特に音声・文書資料）について分担と期限の明確化を図り、アイヌ語関係事業について改めて充実を期す等、昨年度までの課題の解決に向けた取り組みを開始している。またアイヌ民族文化財団のアイヌ工芸品展を当館第 18 回企画テーマ展として開催する計画であり、特に民具担当には相当の業務負担も予想されるが、この間の調査研究の成果としてぜひ計画とおりの開催を期したい。新型コロナウイルスの先行きの不透明さ等の不安定要素も懸念されるが、全体として、これまでの課題の解決を図りつつ事業の充実を期せる計画と評価する。				

令和3年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号	16	所管G	北海道博物館(企画G)			
項目名	4つのビジョン(重点目標)					
計画策定担当者	主査	主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	東俊佑	池田貴夫		6,508	6,289	82,000 (R2~16年度)
予算計上	□【新規】樺太記憶継承事業[6,289千円、財源:基金繰入金、時限付き(15年間)] ※ウポポイ・国立アイヌ民族博物館との連携については、総合政策部計上の【拡充】アイヌ文化情報発信強化事業[12,969千円、財源:地方創生推進交付金、時限付き]の一部を使用予定					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点①】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の具体的検討 →総括Gが所管し、企画G、道民サービスGなどと連携して取り組む 【中期目標・計画/重点②】道民参加型の活動の推進 →企画G(道民参加の推進)が所管し、博物館基盤G、道民サービスG、研究戦略Gと連携して取り組む。 【中期目標・計画/重点③】ウポポイ(民族共生象徴空間)とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携 →アイヌ民族文化研究センターが所管し、企画G(博物館ネットワーク)などと連携して取り組む 【中期目標・計画/重点④】樺太(サハリン)に関わる資料の収集・保管、調査研究、展示活動を推進する「樺太記憶継承事業」の推進 →研究戦略Gが所管し、博物館基盤G、各研究Gなどと連携して取り組む。				
	一般項目	/				
前年度との主な変更点	・とくになし。 ※重点項目の各項目について、「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」は「7 施設及び周辺環境の整備」、道民参加型の活動の推進は「10 道民参加の推進」、国立アイヌ民族博物館との連携は「15 アイヌ民族文化研究センターの事業」、樺太記憶継承事業のなかの資料の保管・収集は「1 資料の収集・保存」、調査研究は「3 調査研究」、展示活動は「2 展示」でそれぞれ評価する。					
直近の協議会評価意見 に対する取り組み						

【事前評価】

第一次自己評価	総括評価	学芸主幹	池田貴夫	個別評価項目		個別評価
	A	【説明】 令和2年度事業を継承発展させる観点から計画がつけられたものと判断できる。		中期目標・計画との整合性	a	
				年度計画の適切性	a	
				協議会評価意見の反映	a	
			実現の可能性	a		
第二次自己評価	総括評価	総務部長	川田宣人	評価完了日	令和3年4月15日	
	A	【意見】 第2期中期目標・計画期5か年のなかで個々の取り組みの実現が図られるものと判断できる。				